



わたしが変わる。
未来が変わる。

公社ガ日連発第 164 号
2019 年 11 月 25 日

SDGs 推進本部事務局 御中

(公社) ガールスカウト日本連盟
会長 和田 照子

「SDGs 実施指針改定案（骨子）」に対するパブリックコメント

ガールスカウト日本連盟は、「SDGs 実施指針改定案」SDGs 実施指針のビジョン「2030 年までに国内外において SDGs を達成することを目指す」ことについて、賛同します。

ガールスカウト日本連盟は、「少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のために、責任ある市民として自ら考え、行動できる人となれるようにする」ことを使命としており、SDGs についても少女や若い女性をはじめとする一人ひとりの会員が、市民社会の一員として 2030 年までに SDGs を達成することを目指し、さまざまな取り組みをおこなっています。

今回の「SDGs 実施指針改定案（骨子）」について、私たちは、以下の事項を盛り込むことを、強く要望します。

1. ジェンダー平等を優先課題に

日本の現状を踏まえ、「ジェンダー平等、およびジェンダーに基づく差別の解消について」を（2）優先課題と SDGs アクションプランに明記するよう求めます。日本のジェンダー平等達成の程度を鑑みるに、各方面での取り組みをスピード感を持って実施する必要がある、それらを確実に行うためには、ジェンダーを優先課題として設定すべきです。

同骨子案の「現状の評価」に記載されている、ドイツのベルテルスマン財団等の報告書及び OECD の報告書によると、達成度が低い日本の課題として、い

ずれの報告でも、SDG5（ジェンダー）の指摘があります。この点を十分に踏まえ、「ジェンダーの平等」についても、高い優先課題として設定すべきです。

日本が、SDGsの取り組みに関して国際社会でリーダーシップを発揮していくためには、「ジェンダーの平等」に高い優先順位で取り組むことは必須条件です。今回の改定案においてジェンダーを記載することで、この課題に取り組む重要性が可視化され、ビジョンの実現に向けた取り組みが強化されていくものと考えます。

（理由）

ビジョンと優先課題の（2）優先課題とSDGsアクションプランに記されている、（People 人間）1.あらゆる人々が活躍する社会の実現に、SDG5 ジェンダーが含まれているものと考えますが、明確に記載をしなければ、改善のための行動が期待できません。2015年のSDGs採択及び2016年の実施指針決定が、国内のジェンダーに関する改善状況にどの程度貢献したかは不透明です。例えば、2015年制定の女性活躍推進法をはじめ、各方面では取り組みがされたものの、「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度（202030）」については達成が不可能です。また、ジェンダーギャップ指数においては、日本は149か国中110位で、諸外国に比べ取り組みが大きく遅れています。

日本が他国のロールモデルを示している分野は多くありますが、今後も日本が国際社会でリーダーシップを発揮していくためには、達成度が低い「ジェンダーの平等」に高い優先順位で取り組むことが欠かせません。今回の改定案においてジェンダーを明記することにより、この課題に取り組む重要性が可視化され、ビジョンの実現に向けて取り組みが強化されていくものと考えます。

私たちは、「ジェンダー」にかかわる問題が改善されることにより、日本が低いと評価されている、SDG12（生産・消費）、SDG1（気候変動）、SDG17（実施手段）などもより効果的に改善することができると考えます。

特に「すべての女性及び女児の能力強化を行う」という部分を強化することにより、女性及び女児に限らず、すべての人が能力を最大限に発揮できるようになるからです。

2. 「4. 実施のための主要原則」をより明確に

- (1) 普遍性, (2) 包摂性, (3) 参画型, (4) 統合性, (5) 透明性と説明責任をより明確に記載してください。

例えば、包摂性にジェンダーが含まれる、という立場で記載しているのかもしれませんが、その言葉が何を指すかは読み手の知識や関心によります。そのため、誰が読んでも誤解や漏れがなく重要点が理解されるようにする必要があります。

3. 「5.今後の推進体制 (2) 政府の体制」に構成員・意思決定者等に女性を一定数を必ず含んだ上で意思決定することを明記してください。

推進本部や各種会議への構成員・意思決定者等に女性を一定数必ず含み 202030 を実践したうえで、方針を決定してください。国会議員候補者が男女同数になること、政府各省庁の意思決定者レベルでも 202030 を実践すべきです。

4. 「5 .今後の推進体制 (3) 主なステークホルダーの役割」の各項目に以下の視点を含み、ジェンダーへの取り組みを明確に記載してください。

日本が 2030 年までに「誰一人も残さずに」SDGs を達成するために、特に「女児」に対する能力強化を重点に行う観点から、政府及びステークホルダーの役割に、ジェンダーに関する具体的な行動と取り組みを記載してください。なお、これらはガールスカウトが実施した調査に寄せられた全国的女子高校生からの意見を元にしてしています。

ア.ビジネス	<ul style="list-style-type: none">・各種取り組みへの意思決定の場に女性を増やし、202030 を実践することを求めます。・企業活動を行う上で、男女ともに、仕事・家事・子育て等が両立できる働き方ができる取り組みを確実にするよう要望します。
イ.ファイナンス	<ul style="list-style-type: none">・女児及び女性の能力開発や機会創出に対して、投資を促進することを求めます。
ウ.市民社会	<ul style="list-style-type: none">・女児や女性に対する差別や暴力根絶に向けて活動する市民社会の運動

	<p>が行う問題提議や政策提言を積極的に取り入れるしくみを確立することを要望します。</p>
エ.消費者	<ul style="list-style-type: none"> 消費者政策の立案と推進に置いて、意思決定および実行の段階において 202030 を実践し、特に多様化する女性のニーズや経験を反映した内容となるよう求めます。
オ.新しい公共	<ul style="list-style-type: none"> 身近な場面における課題を解決するために、効果的な施策を作成するために、方針を作成する段階から 202030 を実践し、女性の生活に根差した声を取り入れるべきです。
カ.労働組合	<ul style="list-style-type: none"> 女性が男性と同じ役割を果たし、平等な評価を受け対等な扱いを受けるような取り組みを進めることが重要であることを明記すべきです。
キ.次世代	<ul style="list-style-type: none"> 次世代層の可能性を最大限に引き出すため、一人ひとりの中にあるジェンダーに対する無意識の偏りに向き合い、個性を尊重した次世代育成ができるよう、次世代育成を担う層に対するジェンダーに関する教育が欠かせないことを記載すべきです。 <p>(理由) 女子高校生調査 21 ページ</p> <p>「4 年制大学に行かなくてよい」と言われたことがない少女は 90%に上りますが、実際の女子の進学率は、男子の全国平均 56.31%より低い 50.14%です。(文部科学省,2018 年,学校基本調査) 学校教育では、男女平等がすすんでいるように思いますが、実際の在り方・扱われ方から、ダブルスタンダードが存在し、すべての女性及び女兒の能力強化を行えていない現状があります。</p>
ク.教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 学校に存在するジェンダーについての「隠れたカリキュラム」について、男女を平等に扱い、個々の可能性を最大限に引き出せるよう、教師の育成を行うことを強く求めます。このことにより、SDG 全体の達成に貢献するための基盤となる人材育成の強化につながります。 SDG5 達成のために、生徒が性差別について学ぶ機会を作ってください。生徒はすでに様々なジェンダー不平等に接しているため、若い段階からジェンダーについて考える機会が必要です。 <p>(理由) 女子高校生調査 18 および 31 ページ</p> <p>学校にはジェンダーに関する「隠れたカリキュラム」が明確に存在しています、そして、「隠れたカリキュラム」は彼女たちが可能性を發揮することを妨げています。例えば、教師の男女比、教師の発言や期待、能力に対する誤った認識、生徒会や授業中の分担などの場面で、性役割や性別に基づいた偏った考え方に遭遇しています。「女子はこういう役割なんだ」という「価値観」を無意識の内に学んでおり、そ</p>

	れが女子の可能性を伸ばすことを阻んでいます。
ケ.研究機関	・202030 を実践し、女性科学者の育成と活躍を確実にこなってください。
コ.地方自治体	・防災に関する委員に必ず女性を 30%以上含め、その委員会で企画実施を行うべきです。

(理由)

私たちが行ったジェンダーに関する女子高校生調査*では、女兒の能力強化を妨げている「見えないバリア」が存在することが明らかになりました。「見えないバリア」は女兒が何かに挑戦しようという気持ちを挫き、男児に比べて低い自己肯定感につながっています。その「見えないバリア」は、学校や社会、メディア等各方面に存在します。しかしながら、私たちは、その事実に対する国内の認識が低いことと、「見えないバリア」を排除するための取り組みがほとんど見られないことを非常に憂慮しています。その「見えないバリア」を取り除けば、より積極的に自己実現及び社会貢献を目指す人材が増えることにつながり、社会における多様性の確保に貢献していきます。

女兒への取り組みを加速化するためには、現在の女性に対する取り組みを強化することも極めて重要です。それは、女兒が、現段階の女性の活躍や女性に対する扱いを参照しながら成長するからです。

女兒及び女性への取り組みを放置することは、次世代の女性の育成が遅延することを意味するため、SDG5 を 2030 年までに国内で達成することは極めて難しくなります。

5. 「5.今後の推進体制（4）広報・啓発」に、ジェンダーに配慮した広報を行うよう明記してください。

いかなる広報においても、市民にわかりやすくすることはもとより、男女が平等に描かれていることや表現等を点検し、ジェンダーに配慮した広報を行うよう、ガイドラインを設定し、その遵守を徹底するよう要望します。

広報活動の情報制作、報道及び役員に女性を一定数含めた報道機関・広告会社が SDG の広報をするようにガイドラインを作成し、確実に実行するよう求めます。

(理由) (女子高校生調査 27 ページ)

日本のメディアが発信する情報には多くの性差別や女性の存在や価値を軽視

する表現が含まれており、それを女子高校生たちの 49%が認識していることが明確になりました。また、メディアの特徴を学ぶ機会は、日本の学校教育にはほとんど存在しません。そのため、「メディアでは男女は平等に描かれていない」と回答した日本の少女は 53%で、イギリスでの同調査では 54%と日英間であまり違いはありませんでしたが、「わからない」と回答した日本の少女は 34%、イギリスは 14%で、日本とは大きな差があることが分かっています。これは日本の少女がメディアについて考えた機会があまりないということを意味しています。

民放テレビ局、番組制作のトップに女性ゼロという実態があります。女性比率調査（民放労連女性協議会）によると、役員に女性がゼロという民間テレビ局が複数あり、制作部門に限ると、女性の視点が入りにくいという実態があります。https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5dd39458e4b0263fbc99ec40?utm_hp

6. 「6.フォローアップ・レビュー」には、男女別のデータ分析を明記してください。

ジェンダーに関する達成度を的確に把握するため、また、2030 年の達成を阻害している原因を的確に把握するため、いずれの分野においてもデータ分析において男女別に分析してください。ジェンダー主流化においては、男女別のデータ収集および分析が基本とされており、このことにより、的確で効果的な施策が設定できるようになるためです。

（理由）男女別のデータ分析が必要である一例を示します。

「高校生の留学に関する意識調査報告書（国立青少年教育振興機構 2019 年）」によると、「今の自分が好きだ」と回答した日本の青少年は 48.4%、米中韓の高校生は 70～80%台で、日本は自己肯定感が非常に低いことがわかりましたが、ここには大きな男女差があります。「今の自分が好きだ」という問いに「よくあてはまる」と答えた割合は男子が 14.9%に対し、女子はわずか 8.3%でした。

2018 年に発表された「高校生の心と体の健康に関する意識調査（同機構）」でも、「私は価値のある人間だと思う」「私はいまの自分に満足している」に「そうだ」と回答した数値は、それぞれ男子 14.1%女子 5.3%、男子 12%女子 5.6%で、女子の自己肯定感男子の約半です。男女平均の数値を使用することは、現実の問題を的確にとらえることができません。

* 「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告 2019

<https://www.girlscout.or.jp/report/20190021883/>

ガールスカウトが 2019 年に行った「ジェンダー」に関する女子高校生調査では、62%もの少女が、普段の生活で性的な嫌がらせや性差別を経験したり見たりすることがわかり、その経験が彼女たちの可能性を阻む一因になっていることが判明しました。この調査は、ジェンダー平等において一定の改善を遂げているイギリスとの比較により、日本の少女はジェンダーについて厳しい状況で生活していることも明らかにしています。

以上

事務担当：篠宮

Tel : 03-3460-0701

Fax : 03-3460-8383

E-mail : stv@girlscout.or.jp